長友　大	1986	ソバの科学	新潮選書
松下　智	1986	中国のお茶	河原書店
工藤父母道	1986	滅びゆく森・ブナ	思索社
小林　章	1986	果物と日本人	日本放送出版協会
大塚　滋	1986	食の文化史	中央公論社
渡部忠世	1987	アジア稲作文化への旅	日本放送出版協会
斉藤正彦	1987	森と文化	東京大学出版会
J．ハッチンソン R．メルヴイル共著 奥本裕昭訳	1987	植物物語－自然からの贈り物	八坂書房
アンソニー・ハックスリ著・鈴木邦雄・中村武久訳	1988	緑と人間の文化	東京書籍
三浦一郎他６０氏	1988	故事名言・由来・ことわざ・総解説	自由国民社
麓　次郎	1988	四季の花事典	八坂書房
佐々木高明・松山利夫	1988	畑作文化の誕生	日本放送出版協会
矢野　暢	1988	東南アジア世界の構図	日本放送出版協会
阪本寧男	1988	雑穀のきた道	日本放送出版協会
鈴木荘夫	1989	食・味事典	大修館書店
辻　裕久	1989	地球クライシス	教育社
吉良竜夫	1989	自然保護の思想	人文書院
廣瀬　誠	1990	萬葉集―その漲るいのち―	国民文化研究会

日本海沿岸（福井県～秋田県）のタブノキの呼称とその語源について

朝日町立南保小学校　本　瀬　晴　雄

1.　はじめに

本会誌第29号で，北限のイノデータブノキ群集について報告したが，このときの調査にともなって，タブノキの呼称が各地で違っていることに気付いたので，それについて報告し，それらの語源についての考えを述べてみたい。諸先輩のご批判，ご教示を頂ければ幸いである。

調査方法は，それぞれの土地の年輩の方について，雑談ふうに対話をしながら録音する方法をとった。それらの録音は，全て筆者が保管している。

調査範囲は，イノデータブノキ群集の北限とされる秋田県本荘市親川から，福井県大飯町までの間で，これに，北部琵琶湖畔の今津町での調査と，そこから国道303号を通り国道27号を経て小浜市に到る途中の，福井県上中町での調査を加えて報告する。

調査期間は，以前に多少の調査を行っていたが，大部分は，平成元年９月から平成２年５月末までに集中して行ったものである。

2.　呼称の分布について

呼称の分布には，別表「福井県以北日本海沿岸地域のタブノキの呼称」で読みとることができるように，はっきりとした変化が見られる。

富山県氷見市より内能登一帯には「タビノキ」の呼称が分布し，加賀・越前海岸ではタモノキ（ダモノキ，タボノキ）またはタモ（ダモ，タボ）の呼称が使われている。また，北部琵琶湖畔から福井県上中町を通って小浜市に到る山間の国道沿いの土地も，同じ呼称が使われている。

一方，新潟県に入ると，タブノキという呼称とは全く関係のないモチノキ（モツノキ）という呼称に変わってしまう。

さらに，注目に値すると思われるのは，富山県朝日町に，両方の呼称の接点と思われるモチタマノキ（モッタマノキ）の呼称があることである。

3.　呼称の語源についての一考察

タブノキ（タビノキ，タモノキ，ダモノキ，タボノキ）については次回に述べることにして，モチノキ（モツノキ）とモチタマノキ（モッタマノキ）について考えてみたい。

先ず，モチノキ（モツノキ）について考えてみたい。氷見市より西の地域には，モチノキ科のモチノキ（Ilex integra Thunb.）が，海岸に近い土地を中心に，非常に多く生育している。ところが，新潟県に入ると，モチノキ科のモチノキ（I.i.T）は非常に少なくなる。文献では「福島県，山形県より西に分布」となっているが，とにかく生育が少ない。このような地域で，タブノキがモチノキ（モツノキ）と呼称が変わるのは，タブノキとモチノキを混同しているためとは考えにくい。

筆者は，本調査の中で，内能登や福井県大飯町で，古老から，子どもの頃にモチノキ（I.i.T）の樹皮から「とりもち」を作って小鳥をとった話を聞いている。このように，モチノキ（I.i.T）の分布が少ない新潟以北で，タブノキをモチノキと呼ぶのは，タブノキの樹皮から「とりもち」のようなものを作っていたことを物語っているのではなかろうか。これについては，今後のもっと詳しい調査と，筆者自身の実験による確認とによって解明して行きたいものと思っている。

つぎに，モチタマノキ（モッタマノキ）について考えてみる。モチタマノキは，おそらく，「モチをとるタマノキ」の意味ではなかろうか。また，タマノキはタブノキやタモノキと語源を一つにするものであろう。大変興味のあることは，朝日町との県境の境川をへだてて，新潟県側に「玉の木」という集落があることである。しかも，この玉の木は，朝日町宮崎の鹿島神社の勢力圏に置かれて来た集落である。参考までに記しておくが，タビノキと呼んでいる氷見市には，女良小学校の近くに地名「旅の木」があったが，地番変更でなくなってしまった（別表参照）。

4. おわりに

筆者が本調査の目的としている事は，単に呼称の分布を調査することだけではなく，タブノキの語源，さらには，ツママとの関係を解明したいと考えているのである。このことに触れるためには，もっと多くの資料を手にすることが必要であり，いつ頃，それに到達できるかは，全く予想もつかないが，とにかく，精一杯の手だてを講じてみたいものと思っている。今後とも，ご批判，ご指導を頂ければ幸いである。

以　上

福井県以北日本海沿岸地域のタブノキの呼称

平成２年６月２９日現在
朝日町立南保小学校　本　瀬　晴　雄

地名	モツノキ（モチノキ）	モッタマノキ（モチタマノキ）	タビノキ（タビ）	タブノキ（タブ）	タモノキ（タモ）	ダモノキ（ダモ）	タボノキ	備考
〔秋田県〕								
本荘市親川（御獄神社）	○		○					
珠洲市金峯寺				○				
〃 中野								
〃 中の釜			○					
松任市徳丸						○		
〃 村井（市木）						○		
〃 上木町						○		
〃 塩屋					○			
〔福井県〕							○	
上中町（信主神社）					○			
大飯町（丹後街道八ケ崎）					○			
〔滋賀県〕								
今津町（塩津神社）						○		

※（参考）鹿児島県知覧では「タンノッキ」と呼んでいる。

域には，モチノキ科のも
に多く生育している。と
なくなる。文献では「福
のような地域で，タブノ
同しているためとは考え

頃にモチノキ（I.i.T）
に，モチノキ（I.i.T）
樹皮から「とりもち」の
いては，今後のもっと詳
と思っている。
ノキは，おそらく，「モ
タモノキと語源を一つに
てて，新潟県側に「玉の
鹿島神社の勢力圏に置か
見市には，女良小学校の
参照）。

以　上

福井県以北日本海沿岸地域のタブノキの呼称

平成２年６月２９日現在
朝日町立南保小学校　本　瀬　晴　雄

地　　名	モツノキ モチノキ	モッタマノキ （モチタマノキ）	タビノキ （タビ）	タブノキ （タブ）	タモノキ （タモ）	ダモノキ （ダモ）	タボノキ	備　　考
［秋　田　県］								
本荘市親川（御嶽神社）	○							
［山　形　県］								
遊佐町女鹿	○							
〃　竜の浦	○							
〃　吹浦	○							
鶴岡市加茂（春日神社）	○							
温海町小岩川	○							
［新　潟　県］								
村上市柏尾	モッチギ							
〃　野潟	○							
〃　大月	○							
柿崎町米山（蓮光寺）					○			
糸魚川市（一の宮）	アオキ							
青海町　歌	○							
〃　玉の木					○			地名が「玉の木」，発音は古くは「たものき」現在は「たまのき」
［富　山　県］								
朝日町横尾（山田宗太郎　方）		○						
〃　井の口（柏原長孫　方）		○						
朝日町の全区域		（アオダモ）						
氷見市薮田			○					氷見市の公用語は「ツママ」
〃　大境			○					
〃　中田			○					地名「旅の木」あり
〃　脇			○					
〃　長坂（馬場出）			○					
［石　川　県］								
七尾市大泊			○					
〃　佐々波				○				
〃　白鳥				○				
能登町波並			○					
珠洲市金峯寺			○					
〃　中野				○				
〃　中の釜			○					
松任市徳丸						○		
〃　村井（市木）						○		
〃　上木町						○		
〃　塩屋					○			
［福　井　県］							○	
上中町（信主神社）					○			
大飯町（丹後街道八ケ崎）					○			
［滋　賀　県］								
今津町（塩津神社）						○		

※　（参考）鹿児島県知覧では「タンノッキ」と呼んでいる。